

紫式部日記註釋

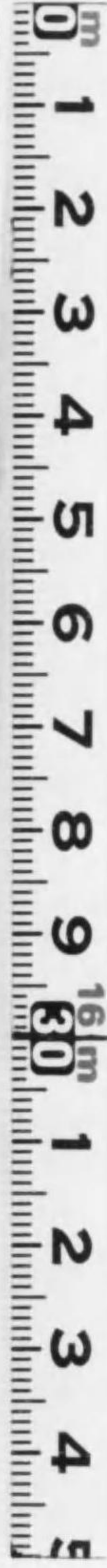
三

915.35-Sh497



1200500758506

35
49



始



紫式部日記註釋

三



915.35
SH49

33 12 25

岡
J 14
3

紫式部日記釈三の巻

みせちは九日にまぬ

みせちとは毎年土月中の卯日新嘗祭（その年の新穀を帝にさし進め奉る）にたてまつる

祭をつらうはつる女をみぎの舞姫と

と云うくもふきてみせちと記さしあり。舞姫の定貞一代一度の

大嘗会（後世に踐祚のち行をふくを大嘗会といひ）にみ人新嘗会に

け四人なり。（その中若相公は安見封事に及んで河海抄）こととはつ子の新嘗

会なればみぎは四人なり。（その中）決りさてこの舞のねころは江家次男

河海抄等に本朝月令を引て淨所原天皇代吉野宮にたえ

はるに神女天降りて舞をまひたまりにまたい袖を奉りたり

○紫式部日記卷三

二

915.35
SH49



おそれよふと見えたり 大の安見にこそ されしとこけし心なきにたふこと
おとよきと見えたり おとよきと見えたり されしとこけし心なきにたふこと
さてまとは、續日本紀、天平十五年五月、皇太子山王つくり、おそれを
申し給へり、時の詔、詔、天武天皇、禮樂をきて、上下を調へ
て給へんため、修くを給へり、に、契沖法師、吾部大人を、史、今、解、杖
杖、百人、一、骨、う、い、ま、を、い、等、小、妻、一、く、身、入、れ、う、海、さ、右、の、本、朝、月、令
等、の、預、は、古、事、記、の、椎、畧、天、皇、吉、野、宮、に、出、て、海、一、と、に、等、小、新、を
ま、て、め、給、ひ、一、か、る、を、と、う、て、修、れ、の、の、と、名、申、ら、し、古、事、記、傳、小
等、たり、さて、右、い、お、う、の、つ、ま、を、て、寬、弘、五、年、十、月、廿、日、出、て、す、を、え
上、平、の、丑、日、な、り、こ、日、と、帳、亮、貳、志、ひ、て、常、服、と、ま、の、サ、カ、一、
な、り、お、れ、を、常、常、常、殿、に、出、て、な、り、一、申、て、出、賢、せ、う、と、な、り、

實成卿 信後守おに、この服のけう、持くを、つうえに

信後守行成々々、た、い、い、つ、と、な、り、これ、は、公、事、上、の、以、子、の、實、成、守、お
な、り、それ、は、初、學、堂、に、信、後、守、お、と、る、内、大、臣、の、實、成、守、お、な、り、
一、又、内、の、お、と、の、友、守、お、な、り、も、な、り、た、れ、を、な、り、於、後、拾、遺、集、の、そ、
廻、お、と、な、り、い、ち、ふ、れ、今、あ、つ、た、め、つ、と、て、常、服、と、ま、の、う、ち、實、成
々、う、一、人、い、一、法、々、な、り、その、裝、束、な、を、中、文、の、以、方、ら、り、一、た、て
て、つ、う、え、に、な、り、一、

兼隆卿 右守お、おの、あ、せ、ち、ふ、つ、つ、一、さ、れ、な、つ、つ、え、に、つ、つ、て、に、そ、こ、よ、ろ、い

小た、さ、の、い、ま、て、ん、ま、梅、の、枝、を、一、て、い、と、さ、さ、ら、え、たり

兼隆卿 兼隆、々、々、も、一、人、い、一、法、々、の、お、ま、の、ま、う、に、つ、つ、つ、つ、つ、つ、ん、を、

中宮に申されたるを申交り世にをへし。うへは日蓮のついでに傍
中の奥小室をよみたり。かくこれ即、夜日の長命の装束のまじりなり。
世を信持又傍中の奥小引ねる。頼原新要抄巻小足くたり。一ちうし、おふつ、おまは、玉の小根、おふおふ
ねなひ、よし、おふおふ、して、細を結ひたる、おふおふ、けり、に、花の、けり、枝を、つ
ら、を、おふおふ、へり、う、て、後、おふおふ、れ、う、移、り、て、か、か、け、し、と、細、を、法
いた、おふおふ、し、も、おふおふ、け、り、花、を、た、つ、を、おふおふ、い、へ、り、き、と、おふおふ、たり。
いと、こ、こ、申、と、い、候、の、人、ら、う、と、い、た、を、け、り、に、れ、し、し、と、おふおふ、て
せ、を、後、人、を、り、う、ぎ、て、河、海、抄、に、おふおふ、つ、の、年、を、おふおふ、二人、殿、上、受
取、二人、四、所、を、り、代、始、おふおふ、公、々、二人、殿、上、受、取、三人、おふおふ、所、を、り、と、おふおふ、た、れ
は、この、実、成、意、隆、え、公、々、の、か、り、なり。

おけり、に、い、と、な、む、つ、の、年、を、う、と、い、い、と、み、海、一、な、る、こ、こ、え、あ、れ、え、
い、ん、の、の、れ、ま、の、む、い、な、ら、だ、い、と、み、お、ひ、ま、を、な、く、お、さ、だ、い、
つ、と、ま、い、た、火、の、い、う、り、い、う、ら、う、と、さ、い、た、な、け、な、ら、に、あ、申、さ、い、
る、さ、海、と、ま、あ、は、ま、い、う、づ、ま、を、れ、ま、い、や、と、の、こ、お、ま、と、人、乃、う、へ、の、
と、お、は、え、は、

こ、こ、つ、の、年、を、う、と、い、い、代、一、度、の、大、嘗、会、おふおふ、う、う、う、と、い、い、と、お、は、れ
と、お、つ、の、新、嘗、会、を、り、う、ら、い、一、條、帝、は、寛、永、二、年、六、月、序、序、お、つ、
う、せ、れ、り、一、條、帝、は、や、う、と、う、年、の、十、月、小、大、嘗、会、い、り、さ、れ、な、ら、し、景、宗
お、は、れ、日、中、龍、畧、おふおふ、さ、ら、う、次、と、兼、昨、四、本、の、真、心、を、あ、え、さ、し、を、な、り、
さ、れ、え、つ、の、意、い、こ、と、い、い、ま、う、ら、う、人、と、ん、と、お、ふ、お、は、の、海、う、け、と、ま、い、

後ひしやう。さうえあれをいひてさなくき候うて候幸多う
 もいどみ候たつてあれいひてさなくき候うて候幸多う
 てさうさあやひあななくさうさうさうさうさうさうさうさう
 の日光さこの事をさうすてかく文はいつく有さてうけらるるあには
 後おもあやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 此あ申さるるあやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 にげとえんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一とあやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 りつれがーとくまはんの中にいひてさうさうさうさうさうさう
 小はさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 いみーさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とくにさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 こやあやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 せうせうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 佛の道ふ保くたむいりさうさうさうさうさうさうさうさう
 かのやうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ことあり

だう。屋上人のいたたまてふさーむい。紙燭
 へい。幔
 へい。幔
 らんとたむいひつるさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 らんとたむいひつるさうさうさうさうさうさうさうさうさう

のこころをいふはあつたつとをみのかけをいふとさしたるふきとあると固

く卯日の童女淨賢の日の本なれそなり。和名うつくは日本記畧覽

六年十月の條に丹波守高階業遠朝臣と名たり。傳カキテを業雅のうつきのため

につきは女房なり。いと業雅をいそその傳のうつきをいふやこの水

にそまき暗敷と名よ。まきまきと名よ。いとつとをいふや

うとは夜衣に。神をいふはこれをりのみよやあらん初まきに業

ま朝長ウツクハのうつきにふきこのうつきをいふと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

酒よふと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

後うつくは織あそきたるいと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

あまよ。たをやりかへしと名よ。たをやりかへしと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

たをいすかと。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。いと名よ。

とあふなりと原のあぢんれうーしんきたをやりなうほきえゆるふひてこ
こふ又なりと原のはだけとまきとひりてそ文ふつたなしうれつ
くあふおれはをさうとらまあひつとあやーをうくうつーひ
りめたるなうーしんせれれ新嘗糸のまき糸の真おあええれをなり
てなまのうーしんをさうとらまあひつとあやーをうくうつーひ
あてだけさいとくとのいとはあはああとの傳よの才のだけなり。こや
いはまふりやうにて鄙ヒナのうらうらなり。人おれははああの人おれはは
とさうらの人のさためゆなり。さうとらうとあを新嘗糸おとに
無隆卿
右宰相おのあさうらうはこなしなり。いふあーのふらうとこのい
たらあぢさといたりと人原あむなりー

いふあーこれと原のうらのげに女かうふらう。肥太りなうら。さといひ。里
ふらで鄙いと同一くお中めさばらうあう。原あむをれをさーま
てがし笑ふあう。ふらう。あふたりとに
實成卿
さては右宰相おのれあひかにいふあうくふことなり。うらうつと十
人あり。又いさーのまにれらうて。こ原あむをたさぬのつあも。
あたりう原おれさうあもらうはんとこあをさうてほうけ
にええとたさる

あつ原はを今あつためつとらういあふつとさう。たあひかー。この
表内大臣の清子にて。弘徽殿の女侍のいせうとをさふねえ。あは
れあやゆんうらうと十人とを博え。あはれ。真をかたものとなたり。

室眞のまじりたるは、とて、十人といふに、さし傳と、信
従れ、其名を、臺下仕、榎洗を、とて、なす、たれと、おそ、結小傳と、あ
る、汝の女房に、い、たれ、ほ、さ、ら、う、て、と、と、た、て、う、ら、ふ、に、や、程、す、へ、て、お、い
つ、や、あ、へ、う、た、り、と、眞の、ほ、ろ、の、ら、う、を、ま、さ、さ、を、つ、な、う、い、い、の、ま、こ
これ、これ、衆、衆、と、を、さ、る、内、の、女、房、と、の、あ、り、に、と、お、申、れ、た、ま、や、に
い、あ、り、し、と、い、ふ、ま、さ、し、と、衆、衆、の、衆、衆、に、下、信、従、と、の、ほ、り、と、い、う、廟
れ、か、に、ぬ、さ、に、く、う、へ、て、こ、う、な、ま、お、の、や、ほ、あ、つ、な、う、と、い、ふ、これ、と、て、廿日
のことなり

と、この日のあ、た、殿上人、と、い、つ、の、こと、な、し、と、月、こ、う、に、い、は、し、ひ、に
け、あ、や、さ、る、人、た、ち、に、め、つ、し、と、い、つ、け、い、さ、な、う、と、い、は、す、れ、う
衣、も、さ、る、に、う、り

寅日を、清、茶、試、と、い、ひ、て、清、涼、を、示、し、て、さ、せ、な、う、傳、て、は、賢、せ、し、と、
な、う、と、衆、衆、根、源、小、寅、の、い、殿、上、の、測、碎、あ、り、朗、詠、い、ま、や、を、う、た、ひ、て、三
献、と、て、乱、衆、あ、り、と、雲、景、抄、に、寅、日、人、數、多、多、之、時、上、臈、着、小、臺、盤、
六位、必、群、居、小、板、敷、と、い、ふ、兩、貫、首、已、下、殿、上、四、位、六、位、皆、参、元是且、
也、近代及
晚、頭、尤、非、か、と、い、ふ、と、殿、上、人、と、も、あ、ら、う、と、い、ふ、つ、の、こと、な、し、と、い、
下、し、と、傳、幸、の、こと、な、し、と、い、う、と、い、う、に、た、う、と、い、な、る、れ、と、月、こ、う、里、居
し、て、さ、し、ひ、た、ら、ぬ、あ、さ、ら、う、た、殿、上、人、と、の、衆、衆、と、を、め、つ、し、と、い、ふ、
さ、ら、な、う、と、い、う、と、月、こ、う、里、居、し、た、と、い、ふ、と、い、ふ、この、殿、上、人、と、い、ふ、と、い、の、神
事、に、さ、ら、う、ぬ、人、と、も、あ、ら、う、ん、す、れ、衣、い、花、を、娘、姑、小、土、月、中、の、卯、日、

新嘗會辰日豊明長命にえぬあおほすれぬ小忌とらふ物を志するがう
一代に一度の大嘗會にぞうのこしとらふて外辰の辰日この沖事に初
小忌の人は志を招衣を志すなり。たけなす神事にて初人とのうちに小
忌大忌とらふあり止思ひなく大忌の
將^まてこの小忌たる人招衣を志すれたる招衣を。はるは志とはあつしうあつし
やうて小忌とらふ前には小忌衣とらふなり。
はるかうとらふ小忌とらふ辰上人との兼昨とらふにたはめらるはをたを
せてしうなやめらるるて實のこしとらふ招衣を志するなり。
そく招衣まん外辰の辰日あつしうにやうのこしとらふなり。
れを^れなりしれとらふれとらふ志なり。あつしうにやうのこしとらふは
然有^{なる}を志すめつしうとらふとらふ志なり。あつしうにやうのこしとらふは
を志するなり。
新嘗會つきのこしとらふ

そを^そなりまよふのすけめしてなきおたすふおほきやうなるはこい
つふたうしれさせ給へりやまふ人はよのうと我はうけけるそを
たすのよあまらうふまらうせ給ひていらんにまらうまらうは
せはうちあてりしつにことなるあつしう

春宮亮傳中に武郡の継子隆任なりとありなきおたすふとのまらうこ
れ隆任小治ふやうにやめれとさすりにえありしそを志すなり人は
まらうの初めまらうにやまらうれうまらうひしとらふたなれとらう
そを志すなりけりけりとならうまらうのまらうはうえにやまらう
兼隆々のまらうまらうとらふなりそを志すなりそを志すなりそを
亮から隆任をめてまらうまらうなりそを志すなりそを志すなり

候。江家次第曰。元日々々。重帽額舞臺ナト下ニ引候ヲ水引ト申候。是ハ船

引候ヨリ出タル名目ニテハ有テシク候ヤ々。畢竟帽額水引ハ高下ニテ

モカヘタルハカリニ候々。錦ヲ用候ヲ錦額ト申候。簾ニモカケソヘ申候々。

是クナリ。右のほハ江家次第新舞會に構立舞臺々々其東西北面懸立帽

額装束の條なとも云々。又枕蓑子にもかろのすはすてこそたぬれうちたうと云々

いそしきややくいさあけてはしりすはすにたす。又友のまがりのあ

さやなるすのとのうらんのことなふ又とほのまがりのあけたなと云々。いそ

たふ。亂簾にけきまいたふ。いそはすをなす。けきまをいそ。穢若ふといわ

ふ。いそへいそにたさうてい。四所ニテなす。いそはす。いそはす。いそはす

なり。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす。いそはす

もびけらあせえとくしなれたらうとくきりなきひの中かあきも
そくくーくまたせほそくうれさんたちれまきーまたたにほてまあ
甲ぬし身れほとんまちれとびいなる人おれーとゆりれ
ふあちをいふれすうんとあれなくたさうれたさげうたくな
ーさや

我もくをたさーさけーとほち痛かう。千いそなハ人をらう。またそ
いたせる倍増ともなくめうつうつを。メウツリミテといふと同けそ。氣小て。
たさうまさうれヤリスかうい痛めうーさき。今やうのさうれ人のあふりさき
おとらまはりのけちめえとく(あれれ)かくまたすれ。おひた月小をさう
さうめげさやうほそえとさうはとあのを又あふく加てえとー。えと
うにといふ。あせえとさうて。たのつさうひきたり。ひの中。さきさきハ日つり
ちふあことあふひり。麻もまき。この倍増よにもたせぬかう。そら。あふひ
り。さきまき。あせえとさうのさき。またの中さき。さきえさき。さき
ーさ。倍増の身のさき。ほとんまちれあうなううとなく。またそ。メウツリミテ
ス井ブンニといふ。ほとんまちれさう。人おき。いふれすうんとハ。さき。またそ。まき
に。いふれすうんといふ。あせえと。倍の倍増。あせえと。ほとんまちれさき。まき
と。網をさき。たさう。と。終本。あせえと。まき。さう。中。を。あせえと。まき。あ
ひなくまき。さう。うたさき。いやく。あせえと。人のさき。さう。あせえと。まき。あ
は。グチナといふ。さき。あせえと。さき。あせえと。さき。あせえと。まき。あ
くめり。あせえと。さき。あせえと。さき。あせえと。まき。あ

たむのうらみ... 實成

相郷れ... あふら... 衣小あを...

一きた... 祢たけなり... ひとらは...

丹波... 業き... 赤小ひり... 花を...

二名あり... 青久あう... 赤久なり...

白椽... 汗衫... 童女の...

此や... 湖月抄... 今あり...

赤も... 陪送... 胡曹抄... 麴塵袍

また湖月抄... 麴塵... 幸に...

此れなり... 袴... 下仕...

も... 業き... 袴... 袴...

仕の... 麴塵... 袴たけ...

なり... 引... 丹波...

う... 業き... 袴...

と... 袴... 袴たけ...

え... 袴... 袴たけ...

す... 袴... 袴たけ...

と... 袴... 袴たけ...

に... 袴... 袴たけ...

うゝ如おもあゝぬと見ゆれ

府え侍の奥を、歌麩雜要抄の、兼服と、言ふあるに、是て、ろなう、檢
能か入、それを、為人の、とも、いふ、解ら、に、う、る、も、く、之、の、府、の、こ、を、け、る、を
し、る、な、り、と、し、て、た、ま、これ、を、装束、の、うち、此、一、種、な、れ、と、い、ふ、と、い、う、に、さ、を、あ
は、め、あ、い、ま、ま、さ、く、く、も、た、せ、に、と、あ、る、を、い、は、侍、あ、い、は、は、ほ、と、え、れ
と、う、の、さ、あ、あ、い、ん、ま、は、平、此、四、倍、え、ん、か、は、う、う、な、と、し、て、え、備、を
ま、う、る、あ、り、て、う、ほ、う、さ、ち、あ、う、ま、備、な、と、い、は、は、つ、う、か、さ、う、た、と、あ、れ、を、な、ま、
し、ん、と、な、け、や、と、は、為人、の、う、ふ、う、あ、い、ま、や、と、い、ふ、を、ま、て、我、ら
と、し、て、これ、ら、う、な、け、や、を、い、ふ、や、ア、ト、も、今、い、と、同、一、と、い、な、け、や、と、備、を
し、如、おも、い、な、け、や、と、備、を、ア、ト、い、ま、の、う、う、い、ん、え、ん、う、け、か、我、ら、と、し、て、い、ん、
け、や、と、い、ま、あ、い、ま、い、ふ、う、す、た、た、た、い、う、う、な、い、ぬ、ま、備、の、お、の、か、た、い、ま、う、は、と、あ、い、ぬ
と、い、り、
ふ、と、歌、中、に、ら、

と、い、ふ、を、い、れ、う、あ、う、あ、い、ま、お、ら、と、あ、い、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く
え、う、う、あ、い、く、い、う、備、に、い、ま、い、ん、と、い、は、い、ひ、く、い、ち、い、ぬ、は、

と、い、ふ、或、形、の、こ、い、う、を、い、ふ、く、あ、い、く、ま、あ、い、ぬ、ま、備、
つ、詞、な、り、又、と、い、ふ、こ、い、う、は、サ、ウ、テ、モ、あ、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、は、
と、い、ふ、詞、な、り、侍、あ、い、ま、お、ら、と、あ、い、い、た、い、は、い、ま、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、は、
と、い、ふ、す、て、い、ま、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、は、
ら、う、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、は、
と、サ、ウ、テ、モ、あ、い、ぬ、ま、備、の、い、あ、い、く、い、ち、い、ぬ、は、

とみせうこちう。ねふまゝくすれたきど〜と云へ申人れまのい〜とあま〜
ほのまこ伊

あの借屋を今あらたりのまゝあら申さる中流此所局をいふな〜と云ふたす
えうはなをさしあふ〜と云ふま〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
に笑〜か〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
とこのこい帽額をこちうてあ〜と云ふ

うの女席のぬふたふな系う満より人かんかをなれて〜と云ふと_隆幸_郷
ね申おむう〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
たす〜ひん〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
た〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜

あ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
たりと云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
さんせふと云ふ、

この女席を後拾遺集に中納言美成守おきておまなだてまつりけぬ〜
と云ふ弘徽夫人の女席のことと云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜

控ひぬて、東の言はあやうく、早に東なりと、源がねと云へりなう〜
此らに、おのたう〜
てと〜
か〜
しく、某メカス、某メガルなと〜
まはして、内裏を〜
ひ〜
と〜
人〜
と〜

ねまふあ〜
えうた〜

ねまふあ〜
蓬萊山ハ三神山の〜
史記昔〜
キモ子〜
葉の麻小〜
舊記昔者神女来舞〜
り〜
れと〜
た〜

一、山に名をなす一、さうさふ山海經小蓬萊山海中之神山と云ふは
てすよつらうなる海をえりて、大長の海ほつらえはをにつらうさうさ
てふまあつらうの海とて、初瀬の海ほつらうなるをえりてふたすひらけ
て、ほげきうきにえこのふたふらうのあつらうにほつらうの山つらうさ
てなとるさう、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
やえさうせほええさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
えこれふたふらうの海をえりて、ほつらうの海とて、ほつらうの海と
れいさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

こけは日産うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
こへさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
とあつて、今のオシロイさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

茶おだなとふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

うたをいづらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

うたをいづらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
にてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

加都麻ハ堅津間サ、様ノ齒のまけさ、同の堅くせぬれつをいづ、無間

勝間小船の勝間も、この名をうとえたり、これおられ、様の齒と、煮お煮ふ

ところをいづらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

いろひて、日産うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

おつなふらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

一、は拾遺集おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

むりて、うういたえうれ若葉、半にさるうふらほこまたりてさくろをたまきほとま
 はいとらるるにたのれなとこをよれと同一格なり。またまさと一うもはあては。
 うまうふーのひやふと、彼をいれてらうへー。うらまをよせえ。キ七チヲアラセルを
 ぶ。さうお、ほよとつづひのあつたて、いずまらう。さうしてきほさうにも、あ
 だれとおぼるる海女房ものつをほなれい。ほよとつづひのうさうなれとこい
 うやちひ初をうらふ、いひうへすに初おつけふ。こわてた、うらまをほひひさふ
 も、ゆいれとつづきなり。
早ふ、まにあひをうらふ、いひえんとあると、れと同一格なり。ゆいれとあまた
 ひささう、まの初め、いひえにまうういひ、となくけい、さうおは有けり。
 さうせほ、おほいほりぬへー。まはくーと、おほやけを、ほなれぬを、い
 うほさうるほー。さつげのひの人ーて、これ中納言のい、女房とのらう。な、系
 君おきうんと、たうやふさー。れさつ。いれとめ、いれらうん、いれえさー
 けま、と、おきふさう。さうなり。女、い、あ、ま、い、つ、こ、ら、う、い、ま、ま、つ、ら、と。
 と、ま、う、つ、は、女、房、と、の、と、う、た、ら、ひ、な、く、お、き、ま、な、ま、へ、と。

こ、れ、ゆ、ま、て、ま、れ、こ、人、の、は、状、な、り、中、納、言、い、は、お、徹、屋、の、ま、ふ、け、う、女、房、な、り
 へ、と、お、れ、い、初、め、ま、に、う、ら、ま、ら、ぬ、人、て、中、納、言、君、の、い、つ、ほ、こ、ら、う、い、ま、系、の、ま、い
 こ、の、お、ま、ふ、と、い、ま、せ、て、こ、い、お、ま、せ、つ、れ、い、後、拾、遺、某、お、り、の、女、房、の、ま、ま、に、ゆ、ま、る、人、の
 と、と、ら、う、と、お、け、い、と、て、い、ま、系、君、の、ま、ふ、と、い、ま、せ、て、果、の、日、さ、い、お、ま、せ、ら、う、い、ま、く
 だ、れ、を、ま、う、さ、れ、と、い、ま、ら、う、と、い、つ、を、い、れ、い、こ、の、中、納、言、い、ま、成、々、の、ま、く、は、も、あ
 申、れ、と、ま、成、々、い、長、和、四、年、中、納、言、に、使、ら、れ、た、れ、い、れ、い、ふ、い、あ、く、一、中、に
 此、女、房、と、の、と、う、い、ま、系、の、と、い、ま、ま、な、ら、う、ら、て、は、中、納、言、君、お、き、に、ま、て、ま、た、ら
 一、う、た、れ、た、り、い、お、ま、ま、て、い、ま、の、下、に、女、お、脱、て、女、房、と、の、ら、う、と、あ、ま、ま、な、り

さうし内已たりのけえひうちつけかましくーさきまの日の夜のさうさく
ハけおをうーううさう。さうやうなる殿上人なと。ひふなをさうつれく
をらん

いころえ。昔りさう。辰日あうりまをさうさうつけおえ。サシアタリテの名をう
けまひの下に。さうさう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
ハ試乗と申こめて。おさうさう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
月午日。於北陣。構假屋。有儀式。有饗膳。勸盃等。拾茂抄。十一月下
未日。賀茂臨時祭。試乗なと。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。

長命の夜ーとありて。さうさう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
ふとるて。長命の夜を。調乗と申さう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
調乗と申さう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
さうさう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
にやと申。アアアア

下。私のこと。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
て。海となくと。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
をさう。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
やすし。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。
かりに。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。辰日あうりま。

り。十一月廿八日。下の圖はあり。持中。兼中。の備。ほ。教通とあ
る。ふらへし。それ。後。拾遺集に。二条。また。政大。持中。お。お。つ。つ。ひ
つ。つ。に。と。る。は。て。あ。へ。し。の。ら。た。政。大。長。む。て。大
二。条。國。白。と。す。は。こ。れ。

持の目。お。お。を。な。は。は。後。に。の。わ。せ。を。経。了。う。ん。た。ち。め。と。ひ。人
お。さん。た。ち。を。こ。ろ。う。て。ら。一。束。ほ。持。後。に。たり。ひ。と。よ。さ。こ。う。に。け
て。ひ。たり

持の目。印。面。目。を。う。お。お。の。こ。と。二。の。ぎ。に。ひ。う。ひ。人。を。ほ。め。奈。の。兼。人。を。う。い
お。つ。の。を。う。い。人。の。内。裏。に。よ。の。わ。す。る。こ。ろ。や。常。本。半。に。凡。馬。頭。友。或。於。此。に
と。め。こ。に。こ。も。し。ん。と。し。ま。か。れ。う。な。と。も。え。たり。ま。て。こ。ら。い。お。束。の。よ。め。う。
初。逢。せ。に。う。さ。や。え。ん。の。の。ま。に。な。り。ぬ。ま。持。の。目。に。内。の。か。ら。の。い。ま。を。し。て。よ。め。

らん。た。ち。し。ま。い。ん。乃。君。た。ち。と。い。ふ。こ。ろ。う。は。ひ。て。と。も。な。り。ら。一。束。
お。お。う。つ

ほ。と。め。て。う。ち。の。た。は。ひ。と。の。け。持。身。こ。の。と。の。と。す。か。ー。ん。お。さ。ー。と。う。せ。し。ひ
に。け。ら。あ。ま。ー。え。こ。お。た。ふ。あ。ま。こ。の。ま。う。ー。は。こ。を。す。名。なり。か。こ。た。ー
ひ。ま。て。ち。ん。の。く。し。お。う。の。う。う。え。な。と。づ。え。の。君。の。び。ん。を。せ。経。入。へ
ま。い。ー。を。を。ー。たり

は。と。め。て。い。ぬ。ま。あ。ー。た。の。う。て。く。あ。ま。ほ。と。を。い。入。内。大。長。い。ら。奉。公。に。て。実。成。を。弘
徹。底。の。女。序。な。ら。う。れ。又。な。う。と。あ。に。は。い。う。あ。ま。ー。そ。こ。は。あ。ふ。願。を。と。い。れ。て。こ
な。た。ら。う。つ。り。を。う。い。ぬ。な。う。そ。そ。こ。い。こ。の。持。の。の。ま。れ。を。い。れ。て。一。口。の。通。り。に。た
こ。せ。た。ら。う。ま。う。ー。そ。こ。は。草。子。を。い。ま。し。う。の。お。お。を。い。ふ。う。う。え。え。若。俊。小

いひのまじりしとふほほりなほまじりともあてあへしるるにこの表を
いとうやううてうちまじりなまじりなるほほり目守にせしひく目
をいひてあるをいひ

いこのまじりなれえまじりるううのほほりまじりなれえいこのま
じりまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

或止之守の當の保なりなまとも思たり

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いこのまじりなれえいこのまじりなるいこのまじりなるいこのま
じりなるいこのまじりなるいこのまじりなるいこのまじりなる

いふ事づくさとして居りとなり。又一々事はかたかた二十とよき事なり。
と終本録いふ所なり。さてこれこそ賀茂の歴時公の事をいふけり

志元はの廿九日にまわさへめてまわりのことあり。いふこと
も。賀茂公はとされし。これに女いひつきは。こらなくたちなれしけり
と。うとあり。此身のはとやとにほ申

あかきたる歴時公を。といふ。土月大公なること。すなはち。いふこと。そのうち。賀茂
一。て。里にありて。ほとへて。くふ。十二月大に。中まのい言に。まかれり。なり。は
一。つて。まわりの。こと。中ままは。の。う。め。は。寛弘三年。十二月廿九日にま
われり。一。の。事。に。い。ひ。り。賀茂公。ま。あ。よ。した。の。室。傳。り。ぬ。を。た。と。て。い。ひ。り。
たちなれしけり。中まのい言に。なり。うとあり。の。ま。係。れ。傳。え。たり。

まわりの事なり。

兼以てふけふなり。此物に。に。れ。り。一。は。い。れ。て。れ。り。や。と。傳。わ。り。
は。ん。ほ。持。て。う。ら。ふ。一。た。ふ。中。ま。を。人。を。れ。う。ち。を。たり。は。持。以。て。け。り。
い。こと。なり。なり。こと。にて。え。い。ま。は。祿。を。傳。り。の。事。を。い。ふ。事。を。い。ふ。こと。なり。
つ。れ。一。け。り。い。れ。と。あ。め。り。一。く。い。ひ。わ。た。る。を。い。ふ。こと。なり。

と。い。は。れ。て。我。ら。ふ。け。し。申。く。風。の。音。に。ん。の。う。ら。れ。す。を。傳。り。ま。り。い。れ。
と。持。ひ。し。う。こと。なり。

うち。ま。たり。い。ふ。式。形。の。事。を。中。ま。の。い。言。を。い。ふ。こと。なり。い。ふ。こと。なり。い。ふ。こと。なり。
あ。て。月。の。ま。や。す。た。を。い。ふ。事。を。い。ふ。こと。なり。官。人。と。ま。の。履。す。り。て。け。り。う。ら。ふ。事。
は。一。け。り。い。れ。の。ま。や。す。た。を。い。ふ。事。を。い。ふ。こと。なり。枕。草。子。に。い。ふ。事。を。い。ふ。こと。なり。

今世下は世もさるるの東、鬼の外とひびき、救をうち病くは、御座候のよしぞ、

又し。救は、ちかすくたか、うち病きの末、うち病ひたつものなり、へくれたとて、

漿、さして、葉をさむる、今と申すへ。未摘花、あて、侍中、に、童女の、

と、出り、若葉、葉に、は、あ、と、し、童女と、さ、たり、う、さ、も、ひ、は、り、と、救、あ、り、

の、さ、り、な、り、の、と、ね、の、原、葉、さ、り、う、ら、り、

ね、ま、の、さ、ら、ふ、い、へ、く、は、い、日侍、た、せ、と、さ、り、は、こ、ね、ん、人、の、か、

ま、く、れ、と、の、さ、こ、ゆ、に、は、し、ゆ、く、あ、れ、は、え、に、ひ、う、と、思、と、さ、か、さ、

は、た、く、の、若、葉、さ、く、と、ま、り、ふ、れ、式アをん、た、ま、と、さ、う、う、も、さ、り、あ、ふ、た、さ、り、

す、ら、さ、わ、り、て、又、ま、り、ん、と、内、内、を、あ、ら、ふ、つ、さ、れ、さ、り、う、て、云、人、さ、り、

あ、り、ま、り、う、て、ま、わ、り、た、ま、は、え、た、う、か、り、人、種、ふ、た、り、わ、た、り、申、け、ひ、こ、さ、

ア、か、り、さ、り、う、く、な、り、さ、り、と、さ、に、い、は、く、む、く、ひ、か、り、

と、み、は、ま、た、ま、に、ス、キ、フ、モ、オ、キ、ヌ、カ、リ、ひ、う、と、思、と、い、火、火、と、思、と、カ、リ、と、さ、り、

と、ま、り、内、内、の、初、め、へ、と、し、す、ら、ま、わ、り、て、ま、い、保、れ、り、あ、ふ、た、さ、り、ま、い、と、え、こ、よ、

ひ、う、へ、れ、れ、よ、め、ゆ、と、ま、り、の、け、り、き、さ、り、局、の、た、り、ま、り、を、下、に、と、さ、り、へ、

う、く、な、り、ま、り、へ、と、し、う、て、あ、り、さ、り、と、い、ま、り、ま、り、を、あ、て、え、れ、え、こ、の、二、人、

に、裸、體、を、さ、り、ま、り、あ、り、さ、り、と、い、ま、り、

御尉了、御膳宿、御、つ、一、本、の、人、と、い、ひ、に、さ、り、ひ、ま、り、ひ、ま、り、ひ、ま、り、ひ、ま、り、ひ、ま、り、

あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、け、り、ま、り、た、ま、り、か、り、し、れ、と、い、ま、り、人、を、さ、り、ね、の、や

と、り、れ、と、い、ま、り、ま、り、た、ま、り、あ、り、ま、り、と、い、ま、り、人、を、さ、り、と、い、ま、り、

ま、り、れ、と、い、ま、り、ま、り、ひ、た、り、た、り、ま、り、と、い、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

り、り、な、り、

武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ
 ぬばねの御書のなとふに「武部の御書を及よき師をもちてそとに女官を
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ
 ナシイなり。 武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ

武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ
 ナシイなり。 武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ

武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ
 ナシイなり。 武部連の御書有けるに「刀自に清勝をもちてそとに女官を、
 及よき師をこそとび望なと」のひに武部の御書を及よき御書花人
 なとひに命かなへしとていひなうそちをこそいひてちつとていひ

主殿女官衣とひきとるなり。その小くぬるごとく
正月一日の口なり。ぬはごうまのいひたさむらひのこととゆふぬ。三日
也。ゆふの序とせゆ

寛弘六年正月一日。坎日のと。傍中はそなり。尚也。坎日ほそ。さるひこと
すを。ひきとるなり。さるひこと。さるひこと。さるひこと。さるひこと。さるひこと
序とせゆ。さるひこと。さるひこと。さるひこと。さるひこと。さるひこと

余向國白身ま。當膝之小兒。為令戴餅ま。主人召顯信朝臣。令抱
出小兒ま。民部大輔兼定取餅ま。件餅。入手管蓋敷。檀紙。在桶。并齒固。薄椽。畏之餅。三牧也。ま。余置笏。

起取餅ま。作三牧。取之不取。益。令戴若君頂上三度ま。兼元回正一。有小兒戴餅車ま。余

直衣冠也。令戴之。取之。祝詞。官位。カカ。女房一人。抱兒持餅。蓋一人持。劔。先
取餅令戴。命幸カカ。以餅三度當頂畢。則以蓋返給女房。次取桶觸

兒頂上。長押打揚三。成桶。三。枝。共九也。次第如此三度。次取大根觸兒頂。詞皆如此。

畢。又打揚三。ま。手。管。蓋。ま。敷。紅。薄。椽。二。重。置。之。桶。大。根。同。入。之。ま。
三ケ日料。桶大根等。入拵。續獻之。次不敷裝束。見齒固如恒。とるた

ア。これと下。の君君。此。戴。餅。の。さ。ゆ。を。な。せ。つ。て。若。ま。の。と。た。ま。い。や
り。ま。へ。と。ゆ。ぬ。新。中。一。平。に。ら。り

こととのいすをひき。大納言。若。う。終。く。は。いた。ち。の。白。く。れ。な。ぬ。え。ひ。を
め。う。う。さ。ぬ。は。あ。う。ま。地。す。りの。唐。衣。二。日。こ。う。ま。の。た。り。ま。の。い。ん。を。う。は。
こ。う。ま。の。う。う。衣。い。ろ。す。りの。も。三。日。こ。う。ま。の。は。く。う。う。ま。の。う。う。

さぬいすさうのむらさきのみぎうはこれをはきする日かくれなわえなふ紅
をさる日えこれをはきするふなとまふのことなりまきさすさうふ吹のこ
りうすきさうさふうはまなとつねのまきをはいたひふむらさうと
うをさうとまふいとさゆらたはふさうふ

以上大納言の装束のふゆなりこれと朔日坎日には戴鉢の下とゆらた
にけさうなりの如き方の朔日らの装束をはいてをよたうさうなれと三の
ちうのをいさんとてたのつうされふひうれて年の暮の朔日言の装束をよ
つたなりふさうはこれとさうし業のこれをはきするさうし業練のとあふ
りうはま候中に業のうはさをはきするさうし業練のとあふさうの
一度にうさうとまふなをさうし業練のとあふさうし業練のとあふ

かへり

まーさうの君のいさ^劔とさうとのいたささうをさうふさうはさうの
ほりさうこれなめのさうめくとませつたなりあれうちたせつひと
をぬいさうさうませつたなりあれうちたさうのあへうちさうさひさめ
のうらさん^檀のいたさうのさうをぬいたぬいさうさうさうさうさうさう
あうさのうらさひとさうのさうをぬいたぬいさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
をうけさう

いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

り。うらめたり。ハ。薄めたり。く。ら。しく。ハ。切者ナ。なり。ふ。く。う。ハ。肥。た。り。た。を。り。な。る。へ。これ。を。て。掌。お。君。の。装。束。ら。う。あ。う。さ。油。ら。た。ら。の。や。し。を。出。し。大。納。を。君。は。い。と。や。ふ。ち。ひ。さ。ー。と。い。つ。き。う。た。な。る。人。の。あ。ら。う。う。は。く。し。け。ふ。つ。ぶ。く。と。こ。え。な。う。う。ま。い。と。せ。ひ。や。ふ。う。ま。た。け。ふ。ニ。ん。そ。う。あ。ま。う。た。う。す。せ。つ。き。え。ん。さ。ー。な。と。せ。す。入。て。ほ。も。の。な。く。こ。ゆ。う。小。う。つ。く。ー。ま。う。ほ。も。い。と。ら。しく。ー。く。ま。て。な。ー。な。と。ら。う。た。け。ふ。な。ら。ひ。う。な。り。

あ。ふ。装。束。の。上。を。い。ひ。て。こ。ふ。ま。う。り。て。大。納。を。君。の。う。た。ら。ま。い。う。つ。ぶ。く。と。は。こ。ん。く。ト。な。う。す。せ。つ。き。髪。の。す。せ。な。う。う。ん。さ。ー。い。ま。の。小。様。小。髪。の。さ。ー。さ。ゆ。と。い。ふ。と。も。て。本。の。枝。の。さ。ー。た。う。さ。ゆ。を。枝。さ。ー。と。い。ひ。目。の。物。を。さ。ー。て。入。る。さ。ゆ。を。ゆ。な。こ。さ。ー。な。と。い。ふ。た。い。ひ。な。う。さ。い。え。こ。れ。え。顔。の。縁。さ。う。頂。の。音。人。髪。の。せ。の。ほ。り。さ。せ。る。本。の。さ。ゆ。を。い。ま。な。う。ま。い。と。え。な。う。ま。て。う。つ。く。ー。さ。ゆ。て。内。な。う。う。は。よ。ま。い。こ。え。ん。後。と。い。と。ら。う。た。け。ふ。ま。て。な。ー。な。と。ら。しく。ー。く。な。ら。ひ。う。な。う。と。ま。い。こ。と。な。う。ら。しく。と。ら。う。た。け。と。え。ま。う。て。下。よ。ふ。う。つ。ー。ひ。も。た。ら。に。も。や。ら。う。た。け。え。ア。イ。ラ。ミ。キ。な。う。な。ら。ひ。う。は。ミ。ナ。マ。カ。な。う。さ。ゆ。な。う。

せん。ー。の。表。は。さ。や。け。人。の。い。と。ほ。ま。や。う。ふ。ま。い。ま。て。う。み。の。す。ち。こ。ゆ。や。の。小。さ。ら。う。は。て。た。ひ。さ。う。れ。す。ま。ら。う。ふ。尺。を。う。う。あ。ま。り。注。ア。い。と。ん。え。つ。う。け。ふ。ま。を。ま。な。く。あ。ま。な。う。さ。ゆ。ー。注。り。お。う。う。さ。ー。あ。申。と。い。ひ。ま。た。え。ー。た。ま。を。ま。う。う。そ。ー。う。ん。つ。ひ。せ。う。く。あ。ち。に。あ。て。な。う。ん。え。う。う。ー。ア。控。あ。ら。め。と。ら。ま。ゆ。ま。の。う。ち。の。い。ま。つ。も。た。ほ。申。

うちと大納言君のしをいふこのおはよふこれのお家のつらきをいふこのお
 いふおまことにやよのしんぶんこころとあつてあるにいふこのお家のつら
 らひなりたればさやひのつらさの得りぬておをさおをあるに親なりさ
 あつたつとあつとつお名をくだぬまおやあつた家のつらさのつらさの親の
 まておをえんおしをひておしをさつておれはこころおやとねおひかす
 ちのつらさのつらさのつらさのつらさに十分おぬおのつらさのつらさのつらさ
 ある人のつらさのつらさはおしをひたつておしをさつておれはこころおや
 りいぬまれなり

室ね君は此時三位の方へおつらさのつらさにあつたつらさのつらさのつらさ
 こころつらさのつらさのつらさのつらさもあつて申すこころなくうちつ
 たりらつくつくつらさのつらさにさつておしをひやうつらさのつらさ
 せつたりしておつらさのつらさにさつておしをひやうつらさのつらさ
 いとめやぼくもつらさのつらさもあつておしをひやうつらさのつらさ

これおの室ね君とつらさのつらさにあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 お君らとつらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 をおしをひやうつらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 かつてつらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 ちのつらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 つらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ
 つらさのつらさもあつたつらさのつらさにあつたつらさのつらさ

一くはくは海をく。よた年のほよめとふかき入。能く海にまゝ。又あてこ
なだのまづう。一とをさへ。ふたれなり。これをして。少将之位の守り。君のま
なり。少将。能くは。輔正を。少将の位のをぬき。世人。まゝに。ついでに
まはなり

こそお表は。様こそ。いとよく。あてふを。海を。う。二月を。う。の。志たり。柳
れ。海。なり。やうた。い。う。つ。け。ふ。ま。を。一。ふ。か。く。ふ。ま。な。と。も。
ま。ふ。と。は。た。ま。い。と。う。た。ま。を。ま。ま。う。に。ま。の。ま。を。一。い。と。を。ま。ま。う。ひ。
あ。海。り。え。ま。一。ま。海。て。こ。め。は。り。ま。ま。ま。な。ま。ま。人。あ。一。海。に。も。ま。な
一。い。ひ。い。く。人。あ。は。や。ま。ま。ま。ふ。た。ま。い。ひ。り。て。身。を。ま。ま。う。一。ま。ひ。つ。く。
あ。へ。ふ。ま。ま。り。を。ま。ま。ま。つ。つ。つ。つ。あ。海。り。う。一。あ。め。た。け。な。ま。

二月のうの。ま。ま。柳。の。若。葉。ま。ま。に。女。三。ま。の。い。ま。海。を。中。に。あ。か。人。ら。う。け。か。ち
い。ま。く。う。つ。う。け。ま。て。た。い。柳。の。ま。あ。ま。ま。ち。に。ほ。ひ。か。ま。ま。た。ま。を。ま。ま。ま。ま。ま。
た。ま。と。あ。て。ま。ま。ま。う。く。二月の中。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
一。め。た。ま。ま。ま。ま。ま。一。て。ま。ま。の。お。風。に。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
い。つ。し。と。あ。へ。ま。
た。ま。
人。ま。
にて。リ。ク。ツ。チ。イ。な。り。あ。の。あ。ま。
め。た。け。ハ。後。目。痛。け。ま。て。キ。ツ。カ。ハ。キ。キ。マ。海。を。い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。内。は。ま。

うたつさいともめくくいゆめふるやうたひまてこゆふとりたてくむら
あけともえぬ物ういひともめさけふるひくくかたたりきこりて父
のあまひさるまなと人おすくれなりういらつさいんさうひたひつまなと
そあぬものさけとええてそなやふあまやうつきたたけありにそ
てきしてんゆなともめやすくつ申さういづるゆおとさうーろめた
いふたなくすへてさうせあめと人のためーにーつき人ううをえん
うららめくうたえな

おらーけとまよーがーいづうぶや徳いづるあまひつまに父あひとい
あまのまにをいひかくいひくまやあまさう今いふとゆく同いづ
うまや物ああたりあまこほれちあぬまきりなともえたりえんがりにけ

ういふえんをうんともてつるこゆらめくもけうにらくーうんとま
てんゆゆあしそなたをーといたあうにちてきーとあまこれなういひくー
まがのうたをもちあへー数かともうまいこれまいあ内侍のまゆを

式歌のねとはおとととなりふとふさけさすたてあえな人のあひ
とろくおほひてこほさいとこゆふらーめふうみやいさくう
そーとてなうくけあまいこーはらうひたこまーてあおえまあふ
とうだまうたひのふとをうけあまけうーうぬゆひたひつまなと
あことふさげなりうちあもたあぬまやうをたほく

おとうといま内侍のサカうらーめらハゆえらーあけなをいよはく
ろいたるまーてそなううぬ髪をかまうさうゆぶつらひたをりゆゆ

おぢをすく用つきなう。やうそめ。さき中のうたをもちて。新中さう。
これぞ。式部のおとよのうたを。さうけを。新中になう。

さうらうの中。うたをさうとねゆは。こたゆいけん式部

この二人をさういふ。決おまのうたをさういひり

おたゆい。さやうなる人の。さうたゆいとねゆめう。さうゆい。さうさう。
さうく。さとはゆいとこたゆ。たけお。さあさうなりけるを。たちほさ。
さうて。さうほさ。さうとく。さうあなをさう。の人も。ささる。さうて。ゆさ。の
たちを。ほす。さうな。

さとは。髪のおとをさう。むらほさ。は。髪のお末のヌケスポケたるなり。これま
て。おたまのうたをさう。おたゆい。新中になう。一尺。新中になう。

源式部は。たけら。たけら。ほさ。おぢ。ひやう。な。ほと。あて。うほ。さゆ。や。お。え
る。ゆ。お。い。と。を。う。く。ら。う。た。け。な。け。さ。ひ。さ。の。さ。さ。く。う。さ。う。お。人
の。む。じ。め。と。ね。ほ。申。さ。ゆ。い。なり

たけら。たけら。おぢ。ひやう。さうとは。ゆさ。お。ま。ひ。さ。さ。う。ぬ。を。い。ふ。さ。う。さ。は。
サツ。パリ。と。た。さ。ゆ。さ。う。これ。ま。て。源式部のうたをさう

おま。ゆ。な。と。ゆ。と。さ。ら。け。お。ゆ。さ。ゆ。は。屋上人。お。え。の。さ。ゆ。す。く。な
う。なり。た。ま。さ。と。さ。さ。つ。て。は。う。れ。な。け。れ。と。人。ゆ。を。さ。さ。う。い
す。に。う。さ。い。さ。ゆ。さ。う。

屋上人の。さ。ゆ。さ。う。ら。ゆ。た。人。さ。う。と。い。ふ。さ。さ。う。た。ゆ。ゆ。さ。た。ゆ。と。い。た。ほ
さ。お。人。を。さ。さ。う。い。ゆ。ゆ。た。ゆ。と。も。ゆ。と。い。ふ。さ。さ。う。さ。う。さ。つ。て。い。う。さ。ゆ

かたしをいひしとけぬやあつていあうそにんおそますけとくひのきまを
しとせしめしむくしむなるまやてしむ小人をゆるけくまをさしむひまひま
いふまきつらうとひしておぼろふうくらふひてうまひとまひつひす身
はまひひにまひかばあも小人かま申はひてのちふひかた人そまひま
なるとまひまて人ゆる人のまにまをりふ。すろまうを。敷が平にら
あ本のまひまひまとほふおうけなま一人ひとちひうくほけくな
ほまはまてあをほほまうまをんとなひひいれやうてまてゆるふ
し。うまゆるちまにすこーあゆるてすまをひとまなまかまひまま
ゆるーままのたいなりけらうほまひとらにひま
なほいたとぬふなりてをうけなりーとれとなんといひつらひのん

てなり。おいつき敷が平にだいうと疑ふけふまうとあて。老村をへーやうてい
やつれさせてのまをうらたらあうまをコミトラウにす。まうらちまひ小掛を
こへていすままはのまをてなり。これまてあまゆほのまな
みま女といふ人ゆる。平中納言親信卿のむにめにてこーはくとまこま一の
繪かふたの顔していたひひまうそれた人のまそひたうひまうくま
まうてまを申まなく。いとらうまひまひまひとまうけふ
まいままーめゆるままはたけふつまをうらあまうてこちたかおほ
けなりーうあさゆーうまけたまうにねちてすれまこまに不ぼま
らにまうさはすこーあまうてゆる

まま女とはあまふひてたうらひまをすへて。あま某とよほまひ

いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりおのめはるゝ
如房もすうたさちんをせむとひとふりていひたり又あゝと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは
いふこれすうたさちんをせむとひとふりていひたりと申すは

けーくぬいげーうあゝぬと同御をいふと又さくさうてけーくをいひて
ひケシカラ又といふ意なりと雅語訳解に云々なりこれはいけなりといえけ
て同様にさくさうにほろけ
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて
なぬきをほろけのさくさうてけーくをいひて

とゆふふいふすゑてらびがきなりとゆふふの着きたり。されどもけふ
ころふにえゆきて。せうらうらしくうきとなり。せうらうらしくハ功者
ラシイ。と推語訣解にある。不は。女院をいふ

さうらふ人をさうらへていふとゆふふは。このえはあつたりの人ふいふを
けいさういふはあつたりの人ふいふなり。とていふ人々を

このえはあつたりの人ふいふ。中まうこの女院ともなり。つふいふなり。ては
女院あつたりにいふなり。そけちあつたりの人々をいふ。女院をせえられ
たうたなれえなり

をさうらふ申ふつくら。申急あつた明。花のたつら。ほととににのたつて
不にすぬりたまは。院はいといふ乃申急たうて。不は。女院をいふとは
なれ。いんさひたり。又あつたこととを

あつたつふいふなり。たてえい人もなり。たてえをさうらふ。夕月兼。まのち
にありたまは。いといふなり。されども。つらうなつたあつた。ゆふふに。ゆふふに
あつたつた。院を。そは。女院をさうらうていふ。いんふのゆふふを
枕草子。こや。は。不えの條に。女院はつこふけきとをさうらふ。ゆふふに。
このころは。いといふて。たてえ。いひて。この大女院。いといふ。たてえ。不
は。たつた。花鳥餘情に。延喜式。まが。即廻歸。便。田野宮。まが。すれ。て
ら。紫野の野。まが。入。たつた。と。紫野の。まが。なり。されども。せえ。たれ。まが。い
へり。え。い。い。たつた。たつた。なり。又。たつた。まが。なり。と。い。た。事。た。た。い
て。次。こ。まが。を。い。ふ。り。 不。の。まが。た。た。に。ら。ふ

うへ小侍のほり世経よきは、度々申あがり、経よりのわたりなと。
そのさきうしたることを、侍らへ

そは申すのうたふ侍は、侍らへそのつて小にほりうらへをいり、うへまき。
禁中にて、幸れい言ふ申すのさきうのほり世経よきこと、或は、道長公のよめ
こ経ひ、又は、うへのいよめさせ経ひなと、うへ申すのい言にて、侍らへこと
これほりよきと、うの女院を幸りに、さきうに、侍らへこと、うへ

とて、侍らへ、たのつうら、さきう、このむ、本となり、ぬれは、えん、なると、まを、つ
く、えん、中にて、なにて、あう、なを、いひ、すく、うらへ、侍らへ、侍らへ

とて、侍らへ、我、このむ、すち、に、モチ、コシ、テ、なり、さきう、に、領、知、す、言、あ、て、は、紫、野、の、女
院、の、う、侍、へ、を、戒、め、の、と、領、知、し、た、こと、き、侍、を、い、つ、な、入、し、このむ、本、い、つ、を

とを、さきう、め、ら、ろ、つ、えん、な、ら、う、た、の、と、を、この侍らへ、く、する、一、御、さ、し、この、言、い、せ
え、な、り、て、お、小、侍、さ、ぬ、ぬ、兼、時、マ、たり、にて、い、ま、う、このむ、す、ち、小、モチ、コシ、テ、た、乃、つ
こ、その、つ、う、を、領、知、し、た、さきう、に、て、えん、な、ら、う、た、の、と、を、この侍らへ、く、する、本
となり、ぬれ、え、と、い、ふ、言、な、り、ま、て、さ、さ、う、の、方、あ、て、えん、な、ら、う、と、を、つ、く、えん
中、に、な、り、つ、く、えん、え、つ、く、えん、の、言、な、り、あ、う、な、た、い、兼、た、た、あ、て、兼、ふ、う、う、
ぬ、言、候、さ、さ、う、の、言、な、り、い、ひ、す、く、一、を、う、は、ま、さ、ら、う、中、ま、の、う、た、侍、あ、て、は、ま
ら、う、と、な、り、ほ、く、女、院、に、え、さ、う、と、な、ら、う、て、つ、ま、に、か、し、つ、け、ま、い、し、を、候、さ、さ
な、ら、ぶ、テ、ウ、ホ、ウ、な、と、い、せ、し、と、い、ふ、言、な、り、

うへ、の、う、た、も、れ、本、を、さ、う、い、れ、た、う、ん、ま、は、て、う、の、院、に、侍、ら、ひ、侍、ら、は、る
こ、ほ、り、あ、う、ぬ、を、と、こ、に、い、て、あ、ひ、ま、れ、い、よ、と、と、人、の、あ、う、な、ら、ぬ、を、い、ひ、小

おぼゆるさなうけなと申さうく。わのつらう。おぼゆるさなうけは
んきや

うめれ本をまよとは。まよーく。まよもちはひらぬ。武部うまつらうのんや。ハ
とて。卑下した詞なり。師らひゆは。女院にま行へばのちまら
るこそは。女院にてなり。あゝぬまよにま。あゝぬまよとのちまら。まにまに
てあひなり。まよふとい。おぼゆるさなうけまよ。まよまよまよまよまよまよまよ
おぼゆるさなうけまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
たれ。まよひた。まようにては。まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
と。申さうく。わのつらう。つらうのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

海一。まよまよ人の。わなうけつてまよのまよひかへ海一まよことなれは。わ
のまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
らなり。人ふれまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

海一。まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
このまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

されまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

せせにそのぬれたまのほろよとのといひなきいあたりとなく、むとこ
とあきとゆーまこととをたかうちとけ

されと、師てまろま人のまをうけて、サウチヤケレトとなく、ちろひはスレ
アツたう、そのぬれたまのほろよとのい女侍、后の比局とまをひきあがり、まて
うちとけの下に、ぬるにたりなとひつれの揉たなまへし、うちとけとのまに
ては、されとひつれまをうぬまに、次の折のまうひとなく、むけおまこぬとま
り、又いひさしてふくあたまぬまるとしてま、うちとけてなとあつてま、との
まは、されはうちとけたりとひまをふるまて、師てまろま人のまをなれとま、ぬ
内とたりのありまぬにえれぬて、らうぬなく、まうまつては、あうまぬいふ
るすいもあり、とひまをたか

まのまうとて、まめうまをば、ぬとあせくーとたけ、ぬたまはす
こーらろーうらんと、まよふ人は、たほろけにて、ぬてぬけうに

これらう、た、ぬ流おむして、ぬうまぬのまをひまぬのまうとては、ままのぬ
ありまるとしては、のまをまう、まめうままは、ま仕の如房とまのまう、あせく
ーとたけ、ぬたれば、あせめにま、まゆまをひく、帯本まにあせぬらまて
まあう、すこーらろーうらんと、まよふ人は、まつららろーうらんと、ぬいた
る人なり、ままの人は、まろまぬもあれば、たほろけまては、ぬてぬけとぬう、たほ
ろけまては、一トホリニテなう

んやひくまのまらせに、とあうん、うらんのまをま、ま、まぬ人をた、こ
となうんませのまもなく、やは、たさまの人のま、まはまぬふたらら

りて。うちうたうは。中まの人づもれたる。そは。らるふか。なと
も。ひひ。修。な。え。ー

これ。あ。の。ら。る。ふ。か。に。書。して。ら。る。ふ。か。を。い。ふ。ら。は。く。い。は。し。う。に。世。を
ん。た。く。に。あ。せ。い。よ。ま。の。ま。ち。せ。に。下。を。い。ふ。そ。す。ち。の。と。な。く。を。た。い。と。し
た。て。ま。ず。の。人。お。て。も。ほ。た。な。く。と。な。る。ん。ま。せ。ま。と。は。ら。き。ん。を。お。む。つ
う。さ。を。う。な。と。い。ふ。ん。の。お。さ。う。た。ひ。て。ん。ま。せ。の。ふ。か。と。も。あ。れ。と。さ。や
う。に。ら。る。ふ。か。の。の。さ。う。は。あ。し。し。を。お。む。か。の。人。お。て。も。ほ。た。な。く。い。ふ
ふ。は。て。は。ん。ま。せ。の。ふ。か。と。も。な。き。と。う。は。あ。る。を。う。と。い。ふ。ま。な。く。と。な。る
ん。ま。せ。は。一。ト。お。り。ナ。ラ。ヌ。ん。ま。せ。は。て。が。ー。申。さ。し。く。ー。さ。う。た。の。ん。な。く。や。ほ。ま
し。い。ハ。中。ま。な。と。は。さ。ら。う。も。う。て。せ。を。な。れ。た。る。毎。院。こ。う。い。な。ふ。と。も。さ。う

う。か。く。た。え。や。た。を。い。ふ。と。い。ふ。さ。の。人。の。申。う。う。な。と。あ。り。て。毎。院。に。ま
ら。う。て。サ。う。た。く。は。と。い。う。中。ま。の。ま。ち。の。中。お。を。さ。し。あ。ま。さ。た。う。の。人。の。た
ま。の。ら。る。ふ。か。の。を。の。と。い。て。さ。う。く。い。ふ。な。ま。へ。と。な。く。あ。ま。中。ま。の。た
ま。の。ら。る。ふ。か。の。人。を。い。ふ。

よ。ら。う。中。ら。う。は。ほ。と。お。あ。は。し。い。ま。う。す。め。ま。の。み。た。め。の。の
み。して。ま。の。は。た。め。お。う。う。に。い。ま。あ。し。に。え。さ。し。と。ま。え。修。の。こ。れ。を。
う。く。え。う。て。修。の。や。う。を。し。と。ん。い。ま。と。う。く。お。て。い。ら。な。う。た。う。ほ。ま。う
こと。を。修。の。は。さ。の。こと。と。け。ま。は。の。の。こと。を。く。れ。な。と。さ。修。め。の。こ。い。

こ。う。す。め。ま。の。修。の。情。ほ。お。上。手。な。と。い。う。け。お。上。し。メ。ク。マ。海。を。い。ふ。な。ま。へ
し。情。お。は。さ。う。き。と。あ。り。て。僧。都。と。う。た。れ。と。い。う。ふ。さ。や。修。の。一。年。の。い。う。

ことふぶつにらういかなた人れあつて。それうほなるうなほひかく
し。こととも。物のちうにひいたなりけ。せすたんと中まのしちさかたほとふた
そしやうて。らふかろう。こつたえなうと。さうめし。たけし。あまにりれえ。た
ことなるとうなうて。すくにを。ためやほさ。ことふたけ。たけけ。さ
うちこめた。人のむにめとまは。それとらう。ひひあえま。たほと
い。かく。ゆい。ひけ。とま。ん。え。て。ゆ。

い。かく。い。こと。ひ。さ。ま。な。う。の。と。な。う。こと。ま。い。こと。ま。を。得。れ。た。に。や。ま。た
い。と。ま。さ。な。う。と。い。中。ま。の。ひ。さ。か。う。この。ま。永。延。二。年。に。せ。れ。ま。せ。は。ひ。ひ。て。こと
し。寛。弘。四。年。に。書。か。れ。た。う。す。た。式。部。の。ま。は。の。ま。は。寛。弘。三。年。な。ら。う
六。年。の。ま。に。い。つ。う。か。な。れ。は。そ。ほ。と。な。れ。は。た。一。に。た。う。す。た。を。得。た。ま。な

し。とし。う。か。あ。寛。弘。三。年。の。ま。に。頼。通。を。か。さ。さ。か。り。と。り。う。と。十。七。の。ま。う。の。ま。な。う。
今。ま。の。ん。あ。て。は。な。は。い。ゆ。ゆ。く。さ。さ。れ。ま。あ。の。二。に。た。ふ。た。う。ぬ。見。ち。ま。この
こ。の。ま。あ。は。さ。う。し。と。い。し。え。さ。れ。と。甲。た。い。た。ま。た。い。と。ま。ま。さ。か。り。と。ま
う。に。そ。う。う。は。ゆ。く。さ。し。え。ま。さ。ま。の。中。ま。の。ま。う。う。う。う。う。あ。つ。た。の。ほ
と。ふ。せ。の。人。れ。さ。ら。い。ん。さ。や。ち。う。て。ゆ。う。あ。な。と。ま。ま。さ。か。り。に。ま。ま。し。こ
と。な。う。と。な。う。て。は。ナ。ニ。モ。ナ。イ。サ。マ。テ。と。い。う。ほ。と。の。ま。な。う。や。ほ。さ。は。フ。ナ。ニ。ナ
い。ひ。ま。ま。う。こ。め。た。う。む。に。え。様。れ。う。い。ん。ひ。か。中。ま。の。い。ん。ま。あ。な。う。ひ。ひ。い
に。け。い。い。こ。れ。ん。ま。あ。う。つ。に。な。い。た。あ。て。あ。の。よ。う。ま。ま。の。あ。ま。う。ま。ま。う。ま。ま。う
ま。ま。し。い。な。い。た。う。れ。ま。と。ま。ま。さ。か。り。と。な。う

い。ま。ま。う。く。た。と。な。い。ま。ま。で。ま。ま。あ。の。ま。ま。あ。の。い。ん。ま。あ。の。い。ん。ま。あ。の。い。ん。

まつは齊信卿家お丈はかう語ひてさかみせを清くくさることありけるをうにひ
 とあへらにいぬはよふ上らうはちばだめんー清くことうた。又あひて
 をなにごとぢぢぢぢぢぢの清くくくを言ふはことそのなるにせりてむを
 あらへん乃れらふにせりにも清くくもとはいはれ。そつうーと忠よにひ
 うこととせしむるをあかなくすてさうれーとほのりなるまをいをもえ
 えーほりの人はぶさ清くくなる。さう師らひなりぬれはこらなきあ
 て人まをいふーたうふかをたひめまみかううのまてなりにもまをい
 とめー清く

うは中まおまの中まふ啓はつきとめさうにまぬりたふはてのふ女房た
 ちのあふふとめさうていふひなれをぬり。ほのりなるまをいをもえーのふ
 に。脱世あへー。さうーいふれさうて。中まの女房のいふひなれたさすをひひて。次
 のぼろ人はさう清くくさかとは中まかきぬ。ちほろの女房まはささう
 にいふひなれをぬり。いふは必きこのひあはさかすとをれをかう。あ
 るまにいもあかなくすてさうれー。ほのりなるまをいをもえーと清くく。さ
 うほれ。あへーとつら清くくなくとあかきかう。さう師らひの清幸あゆま
 る中まおまの師らひなり。まて人は貴人かう。うは持世いやうぬ貴人のむ
 すめをいふへー。らにーたうふ世間のあうさゆふ清くく。ひめらみかうーのま
 とはまはひいてたう人あても。親親のまよふ。飛雲にて。さうつうれたとて。ゆ
 にてのまゆりとさう。清くく師らひのふに。と文字あうつうんを。脱ーたうな
 へー。師らひなりぬれをいひては。物まのまはとていふ。あかなく。野がに

ら。 作らざる。 数ヶ年には。

道細婢

下らるのせてあつた。 大納まんとらうくとはいはれた。 是れはさういふ人
とにまがしてつほきなるをさうかたはと海ふさるるやうくはたはめんす。
人かしてまうてはよのつとゆるか。

はしる人は上中藩のあひたをいへ。 是れはたはたは数ヶ年には。

そのほろれえんたちめえの所たふまわりなれおをよけぬせよせはた
のくのふさせの人たのひらうまうくはほの—まうその人かなあうはすさあ
—はぶおひてたうひく人ふのひらまうしうのひらまうたうのひらうなれたう
なとくくへかふるまうたうまうにけ。

ほの—まうのひらまうとけまうはうまう—まうまうまうまう—まうまうまうまう

かまうまうまう—まうまうまうまうまう—まうまう—まうまうまうまう
—まうまうまう—まうまうのまうまう

まうまうたうの人まうこれをまう—まう—まうまうまうまうのまうまう
まうまうまうまうまうまうまう—まうまうまうまうまう—まうまうまうまう
まうまうまうまうまう

これまうまうのまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

あはれあはれなる世

あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世

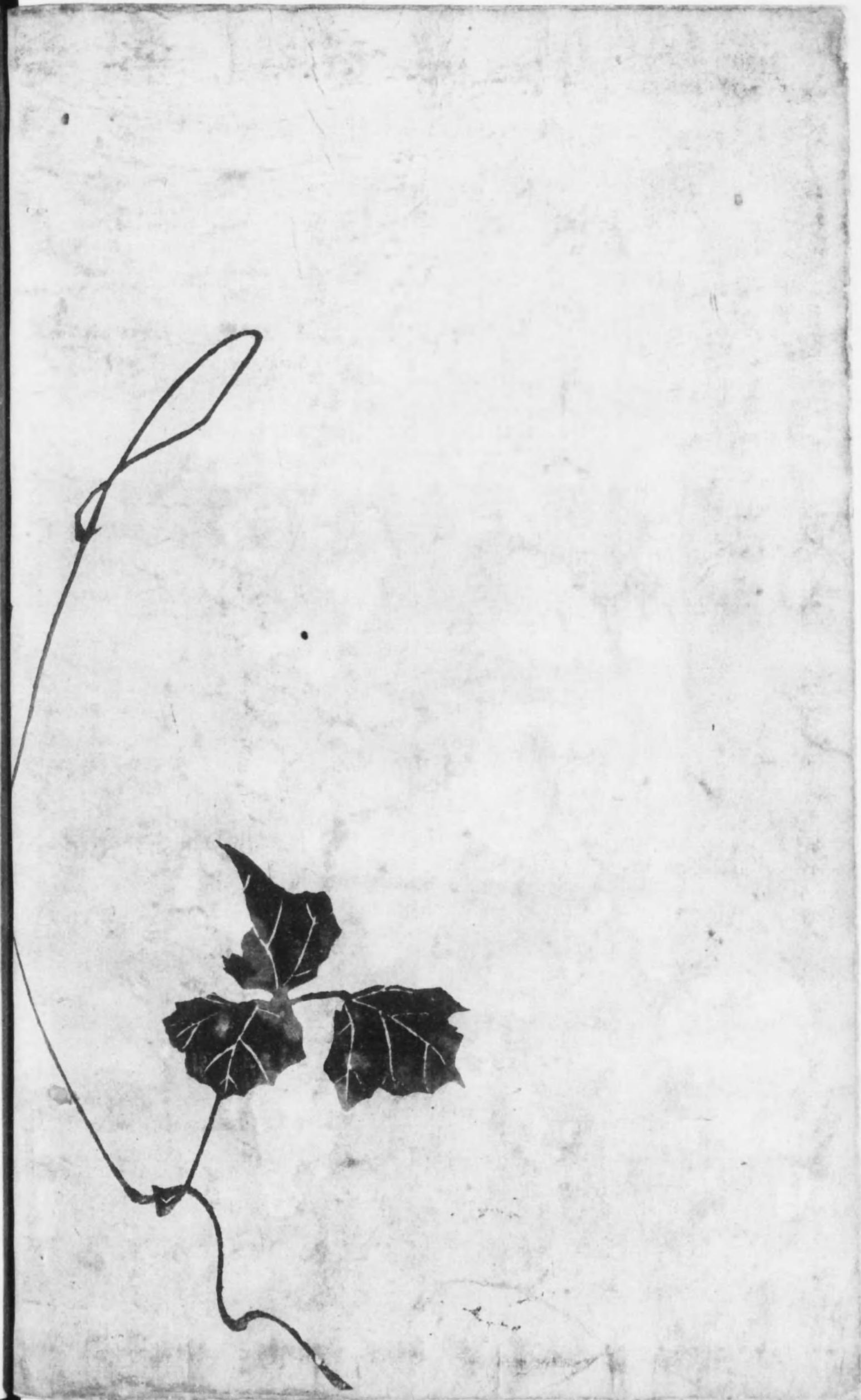
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世

あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世

あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世
あはれあはれなる世

915.35

SH49



終

